

【別添2】(様式例2)

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校 通信制課程

学校番号

5813

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	今年度実施した生徒による学校評価では、面接指導の内容や個別対応について、9割以上が肯定的評価をしている。保護者による学校評価では、本校は飛騨地域に唯一の公立通信制として、なくてはならない重要な存在として求められている。ただ、登校に対する不安感がここ数年と比較して若干増している。中学校や前籍校で不登校傾向にあった生徒が増加傾向にあることや、コロナ禍での活動が制限されることが原因として考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎的・基本的な学力と一般教養を身につけさせる。 ◇自学自習の学習スタイルが身につくように個に応じてきめ細かい支援を行う。 ◇自己理解を促す。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主任を中心として、全職員が情報を共有し、共通理解のもとで指導にあたる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 使用教材の見直しや指導・支援の方法の改善を不断に行い、生徒に合ったレポートの作成を進める	(1) 生徒および保護者を対象とするアンケート結果の分析 (レポート・テスト等の関連項目)	
(2) 個々の生徒の実態に合った柔軟な指導を行えるように、教員間の情報共有と指導計画の修正を行う	(2) 生徒による授業評価アンケート結果と分析 (学習状況・スクーリング等の関連項目)	
(3) 協働する意義やソーシャル・スキルについて学ぶ機会を多く設け、自己理解を促す。	(3) ソーシャル・スキルレポートおよび各行事でのアンケート分析・スクーリング時の観察	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・各教科でレポートの内容やレベル、添削における評価基準の明確化を行い評価の客観性を高めた。	① 分析結果がレポート・スクーリングの改善に反映しているか。	A (B) C D
・学力不足や精神的なケア、学習計画についての支援が必要な生徒に対して適切な支援が行えるよう、教員間での情報の共有を積極的に行った。	② 生徒の実態に合った支援が行えているか。	A (B) C D
・生徒の作成したソーシャル・スキルのレポートを全職員で回覧して生徒の実態や共通理解を図り、個々への指導に生かした。	③ 学校組織マネジメントを機能させ、組織的な対応がなされているか。	A (B) C D
11 成果 ・課題	○個々の生徒に適した支援を行えるように、教員間で共通理解を図ったことが生徒の満足度につながっている。 ▲生徒の多様化が進み特別支援的アプローチや医療的対応が求められるケースが増加傾向にある。関連機関との連携や生徒理解のための職員研修が必要である	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・今年度中に、新課程の学習指導要領の基準に合ったレポートの作成・全体で統一すべき評価の方法・基準を作成し、来年度順次修正していく。 ・学校設定科目である「ソーシャル・スキル」に関して、これまで培ってきた支援方法をベースに適宜見直し、生徒のコミュニケーションスキルを高める支援をしていく。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月24日

### 【意見・要望・評価等】

- ・学習計画についての支援や精神的なケアを必要とする生徒の情報を教員間で共有し、積極的に指導が行われることはよい。
- ・全ての生徒をもれなく教育の場に導いている先生方の努力は大変評価できる。
- ・自学自習は大変難しいと思う。生徒へのきめ細かい支援をお願いしたい。

【別添2】

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校 通信制課程

学校番号 5813

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。</p> <p>2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。</p>
----------	---

2 評価する領域・分野	生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒への各種アンケートからは、いじめや迷惑行為は報告されていない。いじめ防止や基本的モラル・マナーの指導に関する評価は生徒・保護者共に肯定的な意見が多い。また「すぐメール」等による情報発信については、100%の肯定的評価がされていることからコロナ禍に限らず、情報発信のツールとして定着してきたものと思われる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇安全・安心な環境づくりを進め、個に寄り添い、自己肯定感を高めるように努める。</p> <p>◇自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築くとともに、社会性の育成に努める。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒の実態把握のための各種アンケートの実施・分析を行い、懇談を随時行い、担任を中心に保護者・特別支援コーディネーターと連携して、生活及び学習の支援に努める。	(1) 心のアンケート・いじめアンケート・生徒及び保護者を対象とするアンケートの実施と結果分析	
(2) 生徒の主体性の伸長を図るため、学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に活動できるように計画的な指導・支援に努める。	(2) 学校行事・生徒会活動の参加率及び部活動加入者数及び活動状況・大会成績	
(3) 良好な対人関係の構築や社会性を育むために、あらゆる場面を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、職員間での情報共有を徹底する。	(3) 職員会議・職員室での職員間の情報共有、必要に応じて養護教諭やSCからの情報共有	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校や前籍校からの聞き取りにより、生徒の実態をできる限り早期に把握し、学校適応のための支援を行った。</li> <li>・社会的経験の少ない生徒実態に沿った基本的モラルや生活に必要なとされる知識や態度についての具体的指導を行った。</li> <li>・スクールカウンセラー等の外部機関と連携し、生徒を多面的に支援した。</li> </ul>	<p>① スクーリング参加率やレポート提出率の維持等、通信制の学習活動に適應しているか。</p> <p>② 生徒実態や課題に沿った指導・支援がなされているか。</p> <p>③ 学校組織マネジメントを機能させ、組織的な対応がなされているか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○来年度に向けてコロナ禍での学校行事について見直しを図った。より、安心・安全に参加できるよう心がけたい。</p> <p>○多様化する生徒に対応するため、職員研修で「発達障がい」について学んだ。また、常に生徒の情報交換や情報共有を徹底し生徒指導に役立てた。</p> <p>○生徒実態の多面的な把握のため、スクールカウンセラーとの連携を強化した。</p> <p>▲今年度は、1年生のスクーリング出席率が極めて低く、年度途中でのリタイアも例年になく目立った。原因を考察して次年度以降に生かしたい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においても安心・安全な学校行事の在り方についての研究と検討</li> <li>・多様化する生徒の実態を把握するため、特別支援教育コーディネーターを中心とする外部機関との連携</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月24日

### 【意見・要望・評価等】

- ・生活や学習ばかりでなく、社会経験の少ない生徒も多く、カウンセラーなどの充実が今以上に必要である。
- ・情報発信に関しては、様々な情報があるため、情報リテラシーに関する指導をお願いしたい。

【別添2】

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校 通信制課程

学校番号 5813

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。</p> <p>2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。</p>	
2 評価する領域・分野	進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	進路情報提供については70%の肯定的評価であった。進路指導については、肯定的評価が50%わからないが40%であった。主な原因として卒業をすることを目標としている生徒や卒業後すぐに就職・進学を考えていない生徒の比率が高いことが考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇望ましい勤労観・職業観を形成させて、社会的自立を促進する。</p> <p>◇主体的な進路設計ができるように指導し、卒業後の進路実現を目指す。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 外部講師による進路講話を実施して、生徒及び保護者の進路意識を高める。</p> <p>(2) 面接指導（スクーリング）及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供する。</p> <p>(3) 随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など、卒業後の進路を見据えた指導を個に応じて実施する。</p>	<p>(1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート就業調査</p> <p>(2) 進路希望調査</p> <p>(3) 進路先決定状況</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>就業調査及び進路希望調査を実施して実態把握に努めた。</li> <li>進路説明会、個別の学力補充、小論文指導、面接指導を実施した。</li> <li>外部講師による生徒対象の進路ガイダンスを実施した。</li> </ul>	<p>①生徒の実態把握と情報提供は、十分にできたか。</p> <p>②個々の進路希望に応じた適切な支援ができたか。</p> <p>③進路関係についての認識が深まったか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○卒業予定者を対象に、全職員で連携して情報提供、具体的な学習指導、面接練習、志望理由書、履歴書等の添削指導と個別面談を繰り返し実施した。就職希望者についてハローワークとも連携して指導・支援した。</p> <p>○指導が必要な時期にバラツキがあるため、全職員による指導体制を構築、運用した。</p> <p>○外部講師による講話を実施し、生徒、職員ともに有益な情報を得ることができたと好評であった。</p> <p>▲自己肯定感が低く、卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒が多い。具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や方法の工夫が課題である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感が低い生徒や、多様な生育状況・家庭環境を持った生徒の進路実現に向けて、最善の支援が行えるように、全職員の共通理解によって個々の生徒の状況や日頃の様子に注意を払う。また、関係機関とも連携して、卒業年度の流れを紙面やデータで作成し、懇談で活用したり、ホームページに掲載するなどして情報提供するとともに指導に努める。</li> </ul>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月24日

【意見・要望・評価等】

- 卒業後の「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒が多いことが分かった。
- 通信制での進路指導は難しい面が多いと思うが、指導の継続をお願いしたい。
- 今後も生徒個々の特徴を理解し、親身に指導していただきたい。